

## デジタル時代における一般市民との協働

パメラ・S・ライト

米国国立公文書記録管理院最高イノベーション責任者 (CIO)



### 【要旨】

このプレゼンテーションでは透明性、協働、参加という「開かれた政府」の原則について、米国国立公文書館における取組の概要を紹介する。過去 6 年間、国立公文書館は、国立公文書館目録 (National Archives Catalog)、市民アーキビスト・ダッシュボード (Citizen Archivist Dashboard)、のほか、ウィキペディアなどのさまざまなソーシャルメディアのプラットフォームを通じて、一般市民向けのデジタルによる働きかけを飛躍的に拡大してきた。単に記録へのアクセスを提供するだけでなく、一般市民に働きかけて、文字起こしやタグ付け、さらには所蔵記録のデジタル複製の共有を通じ、所蔵記録へのアクセスの改善に共同で取り組むようになっている。

さらに、職員同士がこれまで以上に力を合わせて働けるような新たな方法をつくり出すという点でも進歩が見られる。我々は内部協力ネットワーク (ICN: Internal Collaboration Network) を導入したが、これは職員同士が施設内のどこからでも、また、全国どこにいても、互いに相手の存在を知り、疑問点や解決策を共有するとともに、プロジェクトの進捗を把握したり、文書を編集したりできるようにする業務用のソーシャルプラットフォームである。これにより、職員から見た組織内の業務の透明性が増し、組織全体から参加することへの障壁が低くなった。

透明性、協働、参加という開かれた政府の原則に重点的に取り組むアーキビストは、この急速に変化する技術の時代に適応し続けるためには、新たなスキルが必要であることに気付くであろう。アーキビストには、すでに教わったことがあるアーカイブズの原則に加えて、技術やプロジェクト管理やコミュニティ管理のスキルが必要となる。現在のソーシャルプラットフォームと、そうしたプラットフォームをめぐるコミュニティの規範を理解することが不可欠なのである。

所蔵記録のデジタル化と、組織全体の創造性を刺激するためのイノベーションハブ (Innovation Hub) の開設は、開かれた政府の原則が我々の取組に浸透していることを示す例である。国立公文書館におけるイノベーションの根幹にあるものは、所蔵記録を保存し、それに対するアクセスを提供するというミッションである。我々の改革の取り組みは、すべて開かれた政府の原則に沿って行われている。

### 【略歴】

パメラ・ライト氏は米国国立公文書記録管理院 (NARA) の最高イノベーション責任者

(CIO)として組織全体にわたるイノベーション事業の推進と、NARA 所蔵資料の一般向けオンラインアクセスの提供に関する戦略策定及び実施の責任を負っている。60名のスタッフを率いて、デジタル化、デジタル環境の取組、プロジェクト管理、イノベーションハブ、記録のライフサイクルの標準と権限の各部門を統括する。

担当する業務には NARA のソーシャルメディア、オンライン目録、デジタル化及びウェブサービスのプログラムなどが含まれるほか、開かれた政府に関するホワイトハウスの作業部会に NARA の代表で出席している。ライト氏はまた NARA 内の部局横断的な作業部会の責任者も多数務めており、イノベーション会議、デジタル化管理委員会、ソーシャルメディア作業部会、開かれた政府作業部会の指揮に加え、オンライン・パブリックアクセス・プロジェクトチームを率いて組織全体にかかわる数々の革新的デジタル事業を立ち上げてきた。

ライト氏は米国モンタナ大学で歴史学及び英語学の学士号を取得し、NARA に加わる前は民間のコンサルティング会社所属の歴史研究者として調査研究に従事していた。ツイッターアカウントは「@PamelaSW」。